

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット/3丁目)

事業所番号	2793100237		
法人名	社会福祉法人まんてん		
事業所名	グループホームらんまん高殿		
所在地	大阪市旭区高殿7-19-7		
自己評価作成日	令和5年11月2日	評価結果市町村受理日	令和6年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和5年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>畳張りのシートの床、廊下、居室等、和のテイストのあたたかな空間でありながら、ICTなどの先端テクノロジーを駆使し、ご利用者の方々を見守ります。スタッフ間の情報共有をスムーズにし、ご利用者の身体と心の状態をより正確に把握することで安心安全に生活していただけます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての意義をケア会議でも掘り下げて話し合い、地域での生活の重要性を意識したケアを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住人として、高殿第十四町会に加入し、地域のたかどの祭などの地域行事にも参加している。また、散歩等を通じて、挨拶や会話をしている。近くのトレジャーキッズたかどの保育園の園児と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が認知症で困っていたり、見学に来たいとの要望に答え、アドバイスやグループホームでの生活を見学していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、毎月の行事や写真を用いて報告し、意見や感想を求め、サービスに繁榮させている。地域の方にも情報提供をお願いしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を2ヶ月に1度定期的を開催することにより、事業所の現状をお伝えしている。また、認定調査時には、担当者へ利用者の暮らしの状態を説明し、連携を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が身体拘束をしないケア、身体拘束となる対象を研修等で勉強し、玄関も平日9時から18時まで開錠している。施設内に鍵をかけない、どこでも自由にいける空間作りをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修において、法令や虐待防止に就いて学び、職員全員が日々の入居者の立場に立って、虐待のないケアに取り組んでいる。又、スタッフ同士の助け合いで虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を開き、職員の理解を深めるようにしている。また、対応が必要と思われる利用者がある場合、相談やアドバイスを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明し、重度化や看取りについての対応、退居を含めた事業所の対応可能な範囲についての説明も行い、状態の変化により契約解除に至る場合には、家族と相談し、納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、家族様が面会に来られた時は、何かないか等、聞くようにしている。利用者、家族様の希望をできるだけ実現できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的を開催しているケア会議で、職員からの意見を聞くようにしている。事務所に訪問しやすい雰囲気を作り、日頃からコミュニケーションが図れる関係作りを取っている。必要に応じて個人面談も行って、意見を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻りに現場に来ており、ケア会議に参加したり、利用者様と過ごしたり、現場の把握に努めることを行っている。又、職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を月1回開催している。外部研修は職員情報は共有しているが、あまり参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回の旭区のグループホーム連絡会に参加している。その場で情報共有をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用についての相談があった時は、必ず本人にあつて心身の状態や本人の思いや家族の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までの生活状態などについて、ゆっくりと話を聞くようにしている。また、ご家族様の思いにも寄り添い、事業所として何が出来るのか話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急さが求められる時には、可能な限り柔軟な対応を心掛け、場合によっては他の事業所のサービスにつなげる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を人生の先輩として尊敬の念を抱き、相手の立場に立って常に物事を考えて行動し、良い信頼関係が築いていけるよう努めている。食事の準備、調理のできる方には共にすることを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が利用者様に対して、どのような思いで、どのような介護を望んでいるのかを理解する為に日頃からのコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築き、利用者にとってよりよい援助が行えるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の家族様、友人様がいつでもホームへ来ていただける環境であり、また、利用者様との会話や散歩を通して、利用者様の大切な思い出が引き出せられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事等を通して、利用者様同士の信頼関係を築いていけるよう、談話でもスタッフが中に入り、利用者様同士の関係が深めていけるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した場合でも、利用者様家族との関係を大切に。有益になるよう関係や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話の中で、また、家族様としっかりと話し合うことで、利用者様にとってより良い生活が出来るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に今までの担当ケアマネージャー様と連絡を取り合い、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の情報をいただけるようにしている。スタッフ間でアセスメントを共有し、日々の会話や生活を見ることで、利用者様の暮らしを把握していくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様お一人おひとりの日々の記録をつけることにより、またスタッフ同士の情報交換を通じて利用者様の現状の把握をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の担当者を決め、特に注意してみていくようにし、ケア会議等で、アセスメントを皆で確認し合い、現状の把握に努め、変化や出来る事の情報を集めることで反映し、介護計画の見直しに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様お一人おひとりのケア記録や、日々の状態、ケアプランの実践状態の記録を作成しており、その中で様子や気づきを記入することで、スタッフ間での情報共有ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族様の状況に応じて、必要な買物などの支援は柔軟に対応し、お一人おひとりの満足が得られるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括の職員と民生委員が参加して頂くことにより強化されています。ボランティアの情報や地域の行事や支援に関する情報など、協力関係を築いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	事業所の協力医の他、利用者様からのかかりつけの医療が受けられるよう病院との連携と受診ができるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を当社グループの特別養護老親ホームの職員で配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に気付いたときには、相談と報告を密に行い、適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護サマリー（退居時・入院時入居者状況）を医療機関に提供し、入院時には必要に応じて職員が見舞いに行くようにしている。家族様との状況等の情報交換をしながら、退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの説明を行い、終末期に向けた話し合いを行い、家族の精神状態の変化に合わせ柔軟に対応し、医師、看護師、職員が連携をとり、安心して納得した終末期を迎えられるよう、状態に合わせ、意思を確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDをホームの玄関に設置し、応急手当の勉強会を行っている。また、緊急時のマニュアルも準備している。救急搬送時には直に持参できるよう、最新の情報を作成し、受診用ファイルを用意し、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルや水害避難確保計画等を作成し、年に2回定期的に通報訓練、避難訓練を行っている。また、消防署の協力を得て、避難訓練、消火器の使い方などの訓練を定期的実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を開催し、利用者様の尊厳を損なわない声掛けに注意し、排泄時や入浴時にも利用者のプライバシーが守れるように、さりげないケアを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様自身が決定する機会を作り、利用者様の希望、思考を見極め、利用者様の状態に合わせている。また、ご本人が答えやすく、選びやすいような働きかけを行うよう努め、十分な意思表示が出来ない場合でも、表情などで汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはありますが、一人ひとりの体調に合わせて、その日のご本人の気持ちを尊重し、ご本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせた支援を行い、希望にあわせたカットや毛染めをして頂いている。また、自己決定できない状態の利用者様には、職員と一緒にその人らしさを保てるような手伝いを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けは、利用者様の状態に合わせて、できる利用者様と一緒にしている。楽しい雰囲気作りを大切にしている。1日の流れで、大切な活動にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの摂取量の把握を行い、職員全員が常に意識しながら関わっている。むせや嚥下状態、態様不良時には、形態の変更や捕食を準備し、食が進むよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせ、スポンジや脱脂綿を使用したり、出来ない方に関しては、毎食後の口腔ケアを行い、口腔内の衛生に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを活用し、時間を見計らって誘導したり、トイレでの排泄を大切にしながら、ケアを行っている。立位の取れない方も、日中リハビリをはいて頂き、トイレ誘導を行い、極力トイレでの排泄を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを活用し、水分や食事量のチェックを行い、便秘にならないよう心掛け、腸の動きを良くするために散歩を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	概ね曜日を決めています。利用者の意思を確認し入浴して頂いている。入浴を拒む入居者については、職員交替や時間を変えた対応を行い、利用者に合わせて対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の個別の状態に合わせて、休息をとっていただくようにしています。眠剤を使用している利用者様には睡眠状態を把握し、日中の活動の妨げになっていないか把握し、医療との連携を図るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤内容の用紙を更新し、新しい情報の把握が出来る様努めている。服薬時にも表を活用し、確実に服薬が行えるようにしている。変更があった場合には、ケアファイルを活用している。また、状況に合わせて状態観察記録をつけ、医療との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの力が発揮出来る様、庭木の水遣りや、1階の園芸花壇での作業、食事作りなど、経験や知識が発揮できる場面を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩、個別で確認し、外出の機会を設けるよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方には自由に持たいただき、その方の状態に合わせて、買物時にお金を所持していただき、支払っていただいている。また、家族様ごとに様々な意向を持っているので、相談しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者様はゆっくりと電話ができるよう居室で対応できるようにしている。又、家族様、友人、知人からの電話は、その方に合わせ、支援を行ったり、居室で会話ができる様配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアのテーブル席やテレビの配置など、利用者様と一緒に相談して、使いやすいように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置し、ゆったりとできる空間を造り、テーブル席もその日の気分に合わせ、自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物や好みの物を活かすように伝え、馴染みの物をおいていただくようお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの力を見極め、目印やものの配置に配慮し、混乱や失敗が生じた時には、都度職員と話し合い、混乱や不安が取り除けるように努めている。		